

## 【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年2月12日

【四半期会計期間】 第128期第3四半期(自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)

【会社名】 株式会社 群馬銀行

【英訳名】 The Gunma Bank, Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役頭取 齋藤 一 雄

【本店の所在の場所】 群馬県前橋市元総社町194番地

【電話番号】 (027)252 - 1111(大代表)

【事務連絡者氏名】 総合企画部長 深井 彰彦

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋二丁目3番21号  
株式会社群馬銀行 東京事務所

【電話番号】 (03)3271 - 1801(代表)

【事務連絡者氏名】 東京事務所長 折茂 盛義

【縦覧に供する場所】 株式会社群馬銀行 東京支店  
(東京都中央区日本橋二丁目3番21号)

株式会社群馬銀行 大宮支店  
(埼玉県さいたま市大宮区下町二丁目1番地1)

株式会社群馬銀行 宇都宮支店  
(栃木県宇都宮市大通り二丁目2番1号)

株式会社群馬銀行 大阪支店  
(大阪府大阪市中央区備後町四丁目1番3号)

株式会社 東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

(注) 宇都宮支店及び大阪支店は、金融商品取引法の規定による縦覧に供する場所ではありませんが、投資者の便宜のため四半期報告書を縦覧に供するものであります。

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

		平成23年度第3 四半期 連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	平成24年度第3 四半期 連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	平成23年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
経常収益	百万円	98,176	97,918	129,079
うち信託報酬	百万円			0
経常利益	百万円	20,132	23,377	31,671
四半期純利益	百万円	10,898	13,698	
当期純利益	百万円			18,739
四半期包括利益	百万円	11,447	24,597	
包括利益	百万円			30,057
純資産額	百万円	381,970	418,888	400,577
総資産額	百万円	6,340,635	6,796,073	6,460,737
1株当たり四半期純利益金額	円	22.56	28.76	
1株当たり当期純利益金額	円			38.89
潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額	円		28.75	
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額	円			
自己資本比率	%	5.87	6.00	6.04
信託財産額	百万円	6	2	4

		平成23年度第3 四半期 連結会計期間 (自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日)	平成24年度第3 四半期 連結会計期間 (自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	円	5.69	13.08

- (注) 1 当行及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
- 2 第3四半期連結累計期間に係る1株当たり情報の算定上の基礎は、「第4 経理の状況」中、「1 四半期連結財務諸表」の「1株当たり情報」に記載しております。
- 3 平成23年度第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額は、潜在株式がないので記載しておりません。
- 4 平成23年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式がないので記載しておりません。
- 5 自己資本比率は、((四半期)期末純資産の部合計 - (四半期)期末新株予約権 - (四半期)期末少数株主持分)を(四半期)期末資産の部合計で除して算出しております。
- 6 信託財産額は、「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づく信託業務に係るものを記載しております。なお、連結会社のうち、該当する信託業務を営む会社は提出会社1社のみであります。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当行及び当行の関係会社が営む事業の内容については、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても、異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結会計期間末の財政状態につきましては、総資産は前連結会計年度末比3,353億円増加し6兆7,960億円となり、負債は前連結会計年度末比3,170億円増加し6兆3,771億円となりました。また、純資産は前連結会計年度末比183億円増加し4,188億円となりました。

主要勘定につきましては、貸出金は、個人貸出や中小企業貸出などリテール貸出の増加を主因に前連結会計年度末比2,238億円増加し4兆3,042億円となりました。有価証券は、外国証券の増加などから前連結会計年度末比825億円増加し2兆910億円となりました。譲渡性預金を含む預金等は、個人預金、法人預金共に増加したことから前連結会計年度末比1,034億円増加し5兆8,897億円となりました。

連結グループの中心である群馬銀行の単体の損益状況は次のとおりとなりました。

本業の収益力を表すコア業務粗利益は、資金利益が減少したことなどから前年同期比19億8百万円減少し705億15百万円となりました。資金利益の減少は、貸出金や有価証券などの平均残高は増加したものの、貸出金利回りや有価証券利回りが低下し利鞘が縮小したことによります。一方、経費は前年同期比1億40百万円減少し452億65百万円となりました。

これらの結果、コア業務純益は前年同期比17億67百万円減少し252億50百万円となりました。

有価証券関係等損益は、債券の売却益が増加したことなどから前年同期比30億37百万円改善し1億4百万円のマイナスとなりました。

与信費用は、引続き低水準に推移し、前年同期比11億85百万円減少の51億93百万円となりました。

これらを主な要因として、経常利益は前年同期比29億18百万円増加し212億34百万円となりました。また、四半期純利益は前年同期比29億22百万円増加し134億36百万円となりました。

連結ベースの損益状況は、単体とほぼ同様の理由により、経常利益は前年同期比32億44百万円増加し233億77百万円となりました。また、四半期純利益は前年同期比27億99百万円増加し136億98百万円となりました。

セグメントごとの業績は、次のとおりとなりました。

「銀行業」の経常収益は前年同期比 1 億円減少し831億72百万円、セグメント利益は前年同期比29億11百万円増加し212億33百万円となりました。

「リース業」の経常収益は前年同期比 5 億55百万円減少し142億57百万円、セグメント利益は前年同期比 2 億23百万円減少し 7 億72百万円となりました。

なお、報告セグメントに含まれない「その他」の経常収益は前年同期比23百万円増加し25億34百万円、セグメント利益は前年同期比 5 億55百万円増加し13億78百万円となりました。

#### 国内・海外別収支

当第 3 四半期連結累計期間の資金運用収支は、前年同期比15億77百万円減少し634億73百万円となりました。また、役務取引等収支は、前年同期比 1 億57百万円減少し82億91百万円となりました。

なお、各収支合計は、国内が前年同期比 1 億33百万円増加し749億71百万円、海外が前年同期比15百万円増加し 3 億84百万円、国内及び海外の合計(相殺消去後)が前年同期比 1 億48百万円増加し753億56百万円となりました。

種類	期別	国内	海外	相殺消去額( )	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前第 3 四半期連結累計期間	64,682	368		65,051
	当第 3 四半期連結累計期間	63,088	385		63,473
うち資金運用収益	前第 3 四半期連結累計期間	67,690	495	46	68,139
	当第 3 四半期連結累計期間	65,476	588	56	66,008
うち資金調達費用	前第 3 四半期連結累計期間	3,008	126	46	3,088
	当第 3 四半期連結累計期間	2,388	203	56	2,535
役務取引等収支	前第 3 四半期連結累計期間	8,449	0		8,448
	当第 3 四半期連結累計期間	8,294	2		8,291
うち役務取引等収益	前第 3 四半期連結累計期間	12,479	4		12,483
	当第 3 四半期連結累計期間	12,553	2		12,556
うち役務取引等費用	前第 3 四半期連結累計期間	4,029	4		4,034
	当第 3 四半期連結累計期間	4,258	5		4,264
その他業務収支	前第 3 四半期連結累計期間	1,705	1		1,707
	当第 3 四半期連結累計期間	3,587	2		3,590
うちその他業務収益	前第 3 四半期連結累計期間	14,803	1		14,805
	当第 3 四半期連結累計期間	16,122	2		16,125
うちその他業務費用	前第 3 四半期連結累計期間	13,097	0		13,097
	当第 3 四半期連結累計期間	12,534	0		12,534

(注) 1 「国内」とは、当行(海外店を除く)及び国内に本店を有する連結子会社(以下「国内連結子会社」という。)であります。

「海外」とは、当行の海外店及び海外に本店を有する連結子会社(以下「海外連結子会社」という。)であります。

- 2 資金調達費用は、金銭の信託運用見合費用(前第 3 四半期連結累計期間 1 百万円、当第 3 四半期連結累計期間 1 百万円)を控除して表示しております。
- 3 相殺消去額は、「国内」と「海外」との内部取引額を相殺消去した金額であります。

## 国内・海外別役務取引の状況

役務取引等収益は、前年同期比73百万円増加し125億56百万円となりました。その内訳を種類別にみますと、主なものは預金・貸出業務37億96百万円、為替業務35億36百万円及び投資信託取扱業務15億89百万円であります。

役務取引等費用は、前年同期比2億30百万円増加し42億64百万円となりました。主なものは為替業務6億7百万円であります。

この結果、役務取引等収支は、前年同期比1億57百万円減少し82億91百万円となりました。

種類	期別	国内	海外	相殺消去額( )	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	12,479	4		12,483
	当第3四半期連結累計期間	12,553	2		12,556
うち預金・貸出業務	前第3四半期連結累計期間	3,713			3,713
	当第3四半期連結累計期間	3,796			3,796
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	3,514	1		3,515
	当第3四半期連結累計期間	3,533	2		3,536
うち投資信託取扱業務	前第3四半期連結累計期間	1,728			1,728
	当第3四半期連結累計期間	1,589			1,589
うち保険代理店業務	前第3四半期連結累計期間	1,371			1,371
	当第3四半期連結累計期間	1,384			1,384
うち代理業務	前第3四半期連結累計期間	351			351
	当第3四半期連結累計期間	391			391
うち証券関連業務	前第3四半期連結累計期間	162			162
	当第3四半期連結累計期間	155			155
うち保護預り・貸金庫業務	前第3四半期連結累計期間	94			94
	当第3四半期連結累計期間	93			93
うち保証業務	前第3四半期連結累計期間	87	2		90
	当第3四半期連結累計期間	84			84
うち信託関連業務	前第3四半期連結累計期間	25			25
	当第3四半期連結累計期間	11			11
役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	4,029	4		4,034
	当第3四半期連結累計期間	4,258	5		4,264
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	609	0		609
	当第3四半期連結累計期間	607	0		607

(注) 1 「国内」とは、当行(海外店を除く)及び国内連結子会社であります。

「海外」とは、当行の海外店及び海外連結子会社であります。

2 相殺消去額は、「国内」と「海外」との内部取引額を相殺消去した金額であります。

国内・海外別預金残高の状況

預金の種類別残高(末残)

種類	期別	国内	海外	相殺消去額( )	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
預金合計	前第3四半期連結会計期間	5,569,464	22,178	636	5,591,006
	当第3四半期連結会計期間	5,724,957	31,580	2,944	5,753,593
うち流動性預金	前第3四半期連結会計期間	3,262,657	79		3,262,736
	当第3四半期連結会計期間	3,409,150	243		3,409,393
うち定期性預金	前第3四半期連結会計期間	2,245,475	22,098	636	2,266,938
	当第3四半期連結会計期間	2,230,684	31,336	2,944	2,259,077
うちその他	前第3四半期連結会計期間	61,331	0		61,331
	当第3四半期連結会計期間	85,121	0		85,121
譲渡性預金	前第3四半期連結会計期間	155,406			155,406
	当第3四半期連結会計期間	136,177			136,177
総合計	前第3四半期連結会計期間	5,724,871	22,178	636	5,746,412
	当第3四半期連結会計期間	5,861,135	31,580	2,944	5,889,770

- (注) 1 「国内」とは、当行(海外店を除く)及び国内連結子会社であります。  
「海外」とは、当行の海外店及び海外連結子会社であります。
- 2 流動性預金 = 当座預金 + 普通預金 + 貯蓄預金 + 通知預金
- 3 定期性預金 = 定期預金 + 定期積金
- 4 相殺消去額は、「国内」と「海外」との内部取引額を相殺消去した金額であります。

国内・海外別貸出金残高の状況

業種別貸出状況(末残構成比)

業種別	前第3四半期連結会計期間		当第3四半期連結会計期間	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
国内 (除く特別国際金融取引勘定分)	4,030,407	100.00	4,269,306	100.00
製造業	726,620	18.03	747,690	17.51
農業、林業	5,600	0.14	5,405	0.13
漁業	5,135	0.13	2,990	0.07
鉱業、採石業、砂利採取業	4,088	0.10	3,898	0.09
建設業	172,906	4.29	174,321	4.08
電気・ガス・熱供給・水道業	24,022	0.60	23,263	0.55
情報通信業	26,037	0.64	25,355	0.59
運輸業、郵便業	119,839	2.97	138,294	3.24
卸売業、小売業	444,816	11.04	448,029	10.50
金融業、保険業	134,223	3.33	181,117	4.24
不動産業、物品賃貸業	342,169	8.49	384,323	9.00
医療・福祉	182,341	4.52	190,821	4.47
その他サービス業	177,205	4.40	183,206	4.29
地方公共団体	161,560	4.01	144,122	3.38
その他	1,503,832	37.31	1,616,458	37.86
海外及び特別国際金融取引勘定分	23,157	100.00	34,905	100.00
政府等 金融機関 その他	23,157	100.00	34,905	100.00
合計	4,053,565		4,304,211	

- (注) 「国内」とは、当行(海外店を除く)及び国内連結子会社であります。  
「海外」とは、当行の海外店及び海外連結子会社であります。

「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づく信託業務の状況

「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づき信託業務を営む会社は提出会社1社です。

信託財産の運用 / 受入状況(信託財産残高表)

資産				
科目	前連結会計年度 (平成24年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
現金預け金	4	100.00	2	100.00
合計	4	100.00	2	100.00

負債				
科目	前連結会計年度 (平成24年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
金銭信託	4	100.00	2	100.00
合計	4	100.00	2	100.00

- (注) 1 共同信託他社管理財産については、取扱残高はありません。  
2 元本補填契約のある信託については、取扱残高はありません。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりませんので、キャッシュ・フローの状況の分析は記載しておりません。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題、研究開発活動

当第3四半期連結累計期間において、当行及び当行の関係会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた問題はありません。

研究開発活動については該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,351,500,000
計	1,351,500,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年2月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	478,888,177	474,888,177	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は 1,000株であります。
計	478,888,177	474,888,177		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年12月31日		478,888		48,652		29,114

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。



(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 5,397,000		権利内容に何ら限定のない 当行における標準となる 株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 470,596,000	470,596	同上
単元未満株式	普通株式 2,895,177		同上
発行済株式総数	478,888,177		
総株主の議決権		470,596	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が8千株含まれております。

また、「議決権の数」の欄に、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数が8個含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当行所有の自己株式413株が含まれております。

【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社群馬銀行	群馬県前橋市元総社町 194番地	5,397,000		5,397,000	1.12
計		5,397,000		5,397,000	1.12

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

- 1 当行の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」（昭和57年大蔵省令第10号）に準拠しております。
- 2 当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（自平成24年10月1日 至平成24年12月31日）及び第3四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年12月31日）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人の四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>資産の部</b>		
現金預け金	191,967	167,281
コールローン及び買入手形	43,210	91,637
買入金銭債権	10,346	14,906
商品有価証券	2,400	2,983
金銭の信託	3,929	3,929
有価証券	<sup>2</sup> 2,008,565	<sup>2</sup> 2,091,091
貸出金	<sup>1</sup> 4,080,316	<sup>1</sup> 4,304,211
外国為替	4,677	3,606
リース債権及びリース投資資産	34,086	34,693
その他資産	46,264	47,002
有形固定資産	64,451	64,048
無形固定資産	8,546	8,373
繰延税金資産	2,136	2,005
支払承諾見返	14,640	16,526
貸倒引当金	54,801	56,224
資産の部合計	6,460,737	6,796,073
<b>負債の部</b>		
預金	5,640,540	5,753,593
譲渡性預金	145,812	136,177
コールマネー及び売渡手形	36,611	114,240
債券貸借取引受入担保金	100,948	149,950
借入金	43,107	114,824
外国為替	453	238
その他負債	52,697	61,499
役員賞与引当金	70	43
退職給付引当金	2,601	2,775
役員退職慰労引当金	2,029	789
睡眠預金払戻損失引当金	1,127	1,167
ポイント引当金	159	116
偶発損失引当金	491	610
繰延税金負債	9,116	14,878
再評価に係る繰延税金負債	9,751	9,751
支払承諾	14,640	16,526
負債の部合計	6,060,160	6,377,184

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
資本金	48,652	48,652
資本剰余金	29,140	29,140
利益剰余金	259,170	268,582
自己株式	169	2,246
株主資本合計	336,793	344,128
その他有価証券評価差額金	41,245	51,094
繰延ヘッジ損益	42	37
土地再評価差額金	13,667	13,667
為替換算調整勘定	1,189	1,206
その他の包括利益累計額合計	53,681	63,517
新株予約権	-	90
少数株主持分	10,102	11,151
純資産の部合計	400,577	418,888
負債及び純資産の部合計	6,460,737	6,796,073

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
【四半期連結損益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
経常収益	98,176	97,918
資金運用収益	68,139	66,008
(うち貸出金利息)	49,564	47,873
(うち有価証券利息配当金)	17,563	17,339
役務取引等収益	12,483	12,556
その他業務収益	14,805	16,125
その他経常収益	<sup>1</sup> 2,748	<sup>1</sup> 3,227
経常費用	78,043	74,540
資金調達費用	3,089	2,536
(うち預金利息)	2,352	1,759
役務取引等費用	4,034	4,264
その他業務費用	13,097	12,534
営業経費	45,757	45,563
その他経常費用	<sup>2</sup> 12,063	<sup>2</sup> 9,641
経常利益	20,132	23,377
特別利益	-	-
特別損失	106	87
固定資産処分損	106	63
減損損失	-	23
税金等調整前四半期純利益	20,026	23,289
法人税、住民税及び事業税	7,881	8,085
法人税等調整額	320	454
法人税等合計	8,201	8,540
少数株主損益調整前四半期純利益	11,824	14,749
少数株主利益	925	1,050
四半期純利益	10,898	13,698

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	11,824	14,749
その他の包括利益	376	9,848
<sub>  </sub> 其他有価証券評価差額金	1,666	9,843
<sub>  </sub> 繰延ヘッジ損益	10	4
<sub>  </sub> 土地再評価差額金	1,392	-
<sub>  </sub> 為替換算調整勘定	116	16
<sub>  </sub> 持分法適用会社に対する持分相当額	4	17
四半期包括利益	11,447	24,597
(内訳)		
<sub>  </sub> 親会社株主に係る四半期包括利益	10,536	23,534
<sub>  </sub> 少数株主に係る四半期包括利益	910	1,062

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
(持分法適用の範囲の重要な変更) ぐんぎんジェーシービー株式会社は、当第3四半期連結会計期間において株式会社群銀カードを存続会社として合併しております。これにより、当行の持分法適用の非連結子会社は3社となりました。 なお、当該合併に伴う実質的な持分法適用の範囲の変更はありません。

【会計方針の変更等】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) 当行及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。 これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の経常利益及び税金等調整前四半期純利益は、それぞれ26百万円増加しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 貸出金のうち、リスク管理債権は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
破綻先債権額	15,362百万円	13,822百万円
延滞債権額	57,956百万円	61,398百万円
3ヵ月以上延滞債権額	763百万円	1,172百万円
貸出条件緩和債権額	32,594百万円	36,778百万円
合計額	106,676百万円	113,172百万円

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

- 2 有価証券中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する保証債務の額は次のとおりであります。

前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
12,835百万円	12,098百万円

(四半期連結損益計算書関係)

- 1 その他経常収益には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
償却債権取立益	5百万円	25百万円

- 2 その他経常費用には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
貸出金償却	7百万円	27百万円
貸倒引当金繰入額	6,716百万円	5,170百万円
株式等償却	1,819百万円	1,706百万円
株式等売却損	925百万円	217百万円
貸出債権売却損	416百万円	130百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
減価償却費	5,397百万円	5,025百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	2,659	5.5	平成23年3月31日	平成23年6月27日	利益剰余金
平成23年11月9日 取締役会	普通株式	2,175	4.5	平成23年9月30日	平成23年12月9日	利益剰余金

- 2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月26日 定時株主総会	普通株式	2,392	5.0	平成24年3月31日	平成24年6月27日	利益剰余金
平成24年11月9日 取締役会	普通株式	1,893	4.0	平成24年9月30日	平成24年12月7日	利益剰余金

- 2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)

1 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	合計
	銀行業	リース業	計		
経常収益					
外部顧客に対する経常収益	82,938	13,917	96,856	1,319	98,176
セグメント間の内部経常収益	333	894	1,228	1,192	2,420
計	83,272	14,812	98,085	2,511	100,596
セグメント利益	18,321	996	19,318	822	20,141

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、物品の輸送業務、現金自動設備の保守業務及び保証業務等を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	19,318
「その他」の区分の利益	822
セグメント間取引消去	8
四半期連結損益計算書の経常利益	20,132

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

1 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	合計
	銀行業	リース業	計		
経常収益					
外部顧客に対する経常収益	82,883	13,593	96,477	1,440	97,918
セグメント間の内部経常収益	288	664	952	1,094	2,046
計	83,172	14,257	97,429	2,534	99,964
セグメント利益	21,233	772	22,006	1,378	23,385

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、物品の輸送業務、現金自動設備の保守業務及び保証業務等を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	22,006
「その他」の区分の利益	1,378
セグメント間取引消去	7
四半期連結損益計算書の経常利益	23,377

### 3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

銀行業セグメントにおいて、営業用店舗等（建物）1ヶ所の帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、23百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(有価証券関係)

- 1 企業集団の事業の運営において重要なものであり、前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められるものは、次のとおりであります。
- 2 四半期連結貸借対照表（連結貸借対照表）の「有価証券」のほか、「買入金銭債権」中の信託受益権を含めて記載しております。
- 3 時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は含めておりません。

#### 1 満期保有目的の債券

前連結会計年度（平成24年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
国債	17,810	17,897	86
地方債	52,057	53,557	1,500
社債	1,510	1,535	25
その他	2,155	2,294	138
外国債券	1,854	1,992	138
その他	301	301	0
合計	73,533	75,283	1,750

当第3四半期連結会計期間（平成24年12月31日）

	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
国債	19,108	19,167	58
地方債	48,090	49,168	1,078
社債	1,270	1,290	20
その他	5,701	5,873	171
外国債券	1,852	2,024	171
その他	3,848	3,848	
合計	74,170	75,499	1,328

## 2 その他有価証券

前連結会計年度（平成24年3月31日）

	取得原価(百万円)	連結貸借対照表計上額 (百万円)	差額(百万円)
株式	88,084	108,811	20,726
債券	1,570,850	1,609,576	38,725
国債	918,065	935,828	17,762
地方債	429,535	447,338	17,802
社債	223,248	226,409	3,160
その他	208,702	212,987	4,285
外国債券	185,390	189,497	4,106
その他	23,311	23,490	178
合計	1,867,637	1,931,375	63,737

当第3四半期連結会計期間（平成24年12月31日）

	取得原価(百万円)	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
株式	90,575	115,199	24,624
債券	1,529,816	1,571,999	42,183
国債	824,869	844,172	19,302
地方債	437,864	457,511	19,646
社債	267,082	270,316	3,233
その他	317,411	329,620	12,209
外国債券	232,020	237,783	5,763
その他	85,390	91,837	6,446
合計	1,937,803	2,016,820	79,016

(注) 売買目的有価証券以外の有価証券（時価を把握することが極めて困難なものを除く）のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって四半期連結貸借対照表計上額（連結貸借対照表計上額）とするとともに、評価差額を当第3四半期連結累計期間（前連結会計年度）の損失として処理（以下「減損処理」という。）しております。前連結会計年度における減損処理額は、206百万円（うち、株式190百万円、社債16百万円）であります。当第3四半期連結累計期間における減損処理額は、1,708百万円（うち、株式1,706百万円、社債1百万円）であります。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は自己査定基準に定めております。減損処理は当第3四半期連結会計期間末日（前連結会計年度末日）における時価が取得原価に比べ50%以上下落した銘柄については全て実施し、時価が30%以上50%未満下落した銘柄については、基準日前一定期間の時価の推移や発行会社の財務内容などにより時価の回復可能性を判断し実施しております。

(デリバティブ取引関係)

企業集団の事業の運営において重要なものであり、前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められるものは、次のとおりであります。

(1) 金利関連取引

前連結会計年度(平成24年3月31日)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品取引所	金利先物			
	金利オプション			
店頭	金利先渡契約			
	金利スワップ	36,470	24	69
	金利オプション			
	その他	132		0
合 計			24	70

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号)等に基づきヘッジ会計を適用しているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

当第3四半期連結会計期間(平成24年12月31日)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品取引所	金利先物			
	金利オプション			
店頭	金利先渡契約			
	金利スワップ	40,265	33	84
	金利オプション			
	その他	95		0
合 計			33	84

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を四半期連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号)等に基づきヘッジ会計を適用しているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

(2) 通貨関連取引

前連結会計年度(平成24年3月31日)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品取引所	通貨先物			
	通貨オプション			
店頭	通貨スワップ	182,516	311	337
	為替予約	5,947	6	6
	通貨オプション	47,001		446
	その他			
合 計			317	790

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号)等に基づきヘッジ会計を適用している通貨スワップ取引等及び外貨建金銭債権債務等に付されたもので当該外貨建金銭債権債務等の連結貸借対照表表示に反映されているもの、又は当該外貨建金銭債権債務等が連結手続上消去されたものについては、上記記載から除いております。

当第3四半期連結会計期間(平成24年12月31日)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品取引所	通貨先物 通貨オプション			
店頭	通貨スワップ	142,030	215	241
	為替予約	7,790	14	14
	通貨オプション	43,178		391
	その他			
合計			201	618

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を四半期連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号)等に基づきヘッジ会計を適用している通貨スワップ取引等及び外貨建金銭債権債務等に付されたもので当該外貨建金銭債権債務等の四半期連結貸借対照表表示に反映されているもの、又は当該外貨建金銭債権債務等が連結手続上消去されたものについては、上記記載から除いております。

(3) 株式関連取引

該当事項はありません。

(4) 債券関連取引

該当事項はありません。

(5) 商品関連取引

該当事項はありません。

(6) クレジット・デリバティブ取引

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

		前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	円	22.56	28.76
(算定上の基礎)			
四半期純利益	百万円	10,898	13,698
普通株主に帰属しない金額	百万円		
普通株式に係る四半期純利益	百万円	10,898	13,698
普通株式の期中平均株式数	千株	483,037	476,303
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	円		28.75
(算定上の基礎)			
四半期純利益調整額	百万円		
普通株式増加数	千株		166
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要			

(注) 前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額は、潜在株式がないので記載していません。

(重要な後発事象)

自己株式の消却

当行は、平成24年12月25日開催の取締役会において、会社法第178条の規定に基づき自己株式を消却することを決議し、消却いたしました。

- |               |            |
|---------------|------------|
| (1) 消却した株式の種類 | 普通株式       |
| (2) 消却した株式の総数 | 4,000,000株 |
| (3) 消却日       | 平成25年1月17日 |

2 【その他】

中間配当

平成24年11月9日開催の取締役会において、第128期の中間配当につき次のとおり決議いたしました。

- |             |          |
|-------------|----------|
| 中間配当金額      | 1,893百万円 |
| 1株当たりの中間配当金 | 4円00銭    |

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 2月12日

株式会社 群馬銀行  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 根津昌史

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山田修

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社群馬銀行の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成24年10月1日から平成24年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社群馬銀行及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当行(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。